



HIV 親展報告書改訂のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別なご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、下記項目で使用している親展報告書につきまして、HIV-1抗体/WBとHIV-2抗体/WBの受託中止に伴い、様式を変更させていただきます。
何卒ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

謹白



変更対象

総合検査案内2021:109ページ掲載
Information No.2021-54 掲載

- HIV-1,2抗原・抗体同時測定定量/CLIA (依頼コード No.05066)
- HIV-1/2抗体確認検査 (依頼コード No.13669)
- HIV-1核酸定量 (依頼コード No.05148)

変更日 2022年4月より順次変更

報告書裏面記載のHIV検査手順を「診療におけるHIV-1/2感染症の診断ガイドライン2020版」(日本エイズ学会・日本臨床検査医学会 標準推奨法)のフローチャートに変更いたします。

次ページに続きます

株式会社 **ビー・エム・エル**

本社：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3
総合研究所：〒350-1101 埼玉県川越市的場1361-1
☎ 03(6629)7386 FAX 049(232)3132

検査項目検索用
アプリ B-Book



Google play



Available on the
App Store



電子カルテはビー・エム・エル



報告書見本(表面)

●報告書欄の枠を見やすく変更しました。

従来

Code
 施設名
 診療科
 氏名
 カルテ
 患者ID
 病 様
 提出医
 材 料
 先生
 採取
 受付
 No
 性別
 年齢
 生年月日
 年 月 日
 年 月 日
 報告 年 月 日

検査報告書在中

ご提出医親展

BML ビーエムエル

検査責任者 荒井 信貴

新

施設名
 診療科
 氏名
 カルテ
 患者ID
 病 様
 提出医
 材 料
 先生
 採取
 受付
 No
 性別
 年齢
 生年月日
 年 月 日
 年 月 日
 報告 年 月 日

検査報告書在中

ご提出医親展

開封前に宛名をご確認ください
 お手数ですが、弊社施設名と一緒にご確認をお願いいたします。

BML ビーエムエル

項目名 結果 単 位 基 準 値

コメント

BML総合研究所

検査責任者 荒井 信貴

報告書見本(裏面)

- 【HIV検査手順】を「診療におけるHIV-1/2感染症の診断ガイドライン2020版」のフローチャートに変更しました。
- 【HIV検査のご注意】に記載の検査方法名をガイドラインに準じた名称に変更しました。

従来

HIV検査手順

HIV-1確認検査		HIV-2確認検査	
陽性	陰性	陽性	陰性
Western blot	Western blot	Western blot	Western blot
RT-PCR	RT-PCR	RT-PCR	RT-PCR

1) 陽性かつ確認検査の結果が陽性である場合は急性感染を疑う可能性があるためRT-PCR法による定量検査が実施されます。陽性かつ確認検査の結果が陽性である場合は急性感染を疑う可能性があります。

2) HIV-1陽性結果としますが、高感度RT-PCR法による再検査を勧めます。高感度RT-PCR法による再検査の結果が陽性かつWestern blot法が陽性である場合は、陽性で再検査の結果が陽性である可能性があります。

3) HIV-1陽性結果としますが、陽性、Western blot法での陽性を確認する必要があります。

4) HIV-2 Western blot法が陽性であれば、HIV-2感染である可能性があります。

5) 2週間後の再検査において、スクリーニング検査が陽性であるが、HIV-1 Western blot法が陽性でない場合は、確認スクリーニング検査が陽性である場合、再検査を勧めます。

(参考資料：日本エイズ学会「HIV-1/2感染症の診断ガイドライン2020版」)

HIV検査のご注意

☆HIVに感染してからスクリーニング検査が陽性となるまでの期間は、一般に4～6週間とされています。HIVスクリーニング検査の実施に当たっては、この期間を十分考慮して実施して下さい。

☆HIV感染初期では、抗体が産生されなかったり、産生されていても抗体の量が少ない場合があります。また、抗原についても同様です。スクリーニングの検査結果が陽性であっても、感染が疑われる場合は期間を置いて再検査することをお勧めします。

☆HIV定量検査(RT-PCR法)は感度以下でも陽性を否定できません。

☆HIV確認検査(RT-PCR法)の報告値は(例 4.5×10^4 copy/mlを 4.5×10 の4乗copy/ml)と表示します。

☆スクリーニング検査が陽性的の場合、確認検査としてWestern blot法とRT-PCR法を併せて実施した場合は、それぞれを算定することができます。



新

HIV検査手順

HIV-1/2抗体確認検査法		結果判定(可溶性免疫)	
陽性	陰性	陽性	陰性
Western blot	Western blot	Western blot	Western blot
RT-PCR	RT-PCR	RT-PCR	RT-PCR

1) HIV-1/2抗体確認検査法の結果が陽性である場合は急性感染を疑う可能性があるためRT-PCR法による定量検査が実施されます。陽性かつ確認検査の結果が陽性である場合は急性感染を疑う可能性があります。

2) HIV-1/2抗体確認検査法の結果が陽性である場合は、陽性で再検査の結果が陽性である可能性があります。

3) HIV-1/2抗体確認検査法の結果が陽性である場合は、陽性で再検査の結果が陽性である可能性があります。

4) HIV-1/2抗体確認検査法の結果が陽性である場合は、陽性で再検査の結果が陽性である可能性があります。

5) HIV-1/2抗体確認検査法の結果が陽性である場合は、陽性で再検査の結果が陽性である可能性があります。

(参考資料：診療におけるHIV-1/2感染症の診断ガイドライン2020版)

HIV検査のご注意

☆HIVに感染してからスクリーニング検査が陽性となるまでの期間は、一般に4～6週間とされています。HIVスクリーニング検査の実施に当たっては、この期間を十分考慮して実施して下さい。

☆HIV感染初期では、抗体が産生されなかったり、産生されていても抗体の量が少ない場合があります。また、抗原についても同様です。スクリーニングの検査結果が陽性であっても、感染が疑われる場合は期間を置いて再検査することをお勧めします。

☆HIV-1核酸増幅検査法(リアルタイムPCR法)は感度以下でも陽性を否定できません。

☆HIV-1核酸増幅検査法(リアルタイムPCR法)の報告値は(例 4.5×10^4 copy/mLを 4.5×10 の4乗copy/mL)と表示します。

☆スクリーニング検査が陽性的の場合、確認検査としてHIV-1/2抗体確認検査法とHIV-1核酸増幅検査法(リアルタイムPCR法)を併せて実施した場合は、それぞれを算定することができます。